

## どうする…？

12月12日(土)～13日(日)の2日間、埼玉県上尾の県立スポーツセンターで県岳連主催の遭難対策講習会が開催された。ぼくは1日目の山のファーストエイド講習会を受講した。講師は『山のファーストエイド』(山と溪谷社刊)などの著作もあるこの道の第一人者、恵(いさお)秀彦氏。受講生は50人くらい。わが無名山塾からも何人か受講していた。最近忙しさにかまけてなかなか集会に顔出しできていない。会員諸賢ともご無沙汰のしっぱなしだ。講習会の会場で久々にT君と顔を合わせた。帰りの電車の中で、「シルバーウィークに西穂から奥穂に縦走してきたんですが、びっくりしました」とT君が言う。小さなザックに運動靴という軽装の人が、ぼくらと前後して奥穂に向かっているんです。地図なんか持っていないくて、ネット情報をプリントアウトしたような紙切れ一枚持っているだけで…。どっち行ったらいいんですかって、ルート聞いてくるんですよ。ルートも分からなくてこんな難ルートにくるのかよ、と思ってびっくりしました。

登山者が増えている。T君たちが穂高岳山荘に着いたときは、キャンプ指定地はテントがあふれんばかりで設営スペースがなく、山荘に素泊まりする羽目になった。上高地に下山していくと河童橋辺りまで人の波、聞けばバス待ちの列だそう。バスに乗れるのは夜10時過ぎると聞かされて、小梨平にテントを張ったが満杯だったとか。ことほどさように登山者は増えていて、どのように数えているのか定かではないが、登山人口1,000万人とかいわれている。そのほとんどが非組織あるいは未組織の登山者で、日本山岳協会、あるいは日本勤労者山岳連盟という全国組織傘下の山岳会のメンバーになっている登山者は数パーセントにも満たない。

山岳会に所属していないということは、自分の山行計画に適切なアドバイスを受けられないということであり、組織の企画する様々なトレーニングに参加できないということである。情報の入手先はパソコンだけというのでは、あまりのも危険だと思うのだが、危険と指摘する情報源を持たないから、ネット情報をプリントアウトした紙切れ一枚で、不安を感じる様子もなく西穂に出かけて行く。ほとんどの場合、事故は発生しない。人はそう簡単に落ちたりしないものなのだ。西穂から奥穂までの間、何回かビビル箇所があるが、下山してしまえばそんなことは忘れてしまう。そしてブログに「簡単でした」と報告する。それをプリントアウトして、西穂から奥穂の縦走に出かける人が出る、そして何人目かで事故が発生する。どうする…??

山岳会に入会するのがてっとり早い解決法なのだが、いい山岳会の見つけ方というのは非常に難しい。どうする…??

この拙文を読んで貰える人はいいが、袖摺り会うチャンスがなく、読んで貰えない人に読んで貰うには、どうする…??